

令和元年度  
第3回松江市上下水道事業  
経営計画推進委員会

議 事 内 容  
(概 要)

令和元年度第3回松江市上下水道事業経営計画推進委員会

1. 日時：令和2年3月14日（土） 14：00～16：00

2. 場所：松江市上下水道局 大会議室

3. 出席者

- (1) 出席委員 水谷文俊委員長、磯部美津子副委員長、宮脇和秀副委員長  
安部寿鶴子委員、伊原由紀子委員、前田幸二委員、伊藤京子委員
- (2) 欠席委員 宇野和男委員、玉野井晃委員
- (3) 事務局 川原良一上下水道局長、西村昌志業務部長、古藤智工務部長、  
林真樹業務部次長、吉岡秀樹工務部次長、中倉隆工務部次長  
立脇律夫浄配水課長、杉谷雄二事業推進課長、鍛冶紀夫営業管財課長、  
古藤義弘浄配水課専門官、田淵亮事業推進課専門官、中西誠業務部調整官

4. 議 題

(1) 議事

1. 松江市上下水道局防災計画(案)について
2. 令和元年度決算見込・令和2年度予算概要について

◇委員会の内容（概要）

議事1 松江市上下水道局防災計画(案)について説明

議事2 令和元年度決算見込・令和2年度予算概要について説明

○水谷委員長 どうもありがとうございました。  
それでは、議題の1、2について事務局から説明がありましたが、委員の皆様方からご意見、ご質問を受けたいというように思っております。どなたからでも結構ですので、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

……………発言なし……………

○水谷委員長 それでは、みなさんが考えておられる間に、私のほうで少し気付い

たところを。

まず防災計画のところ、水の使用に関して、3日までのところで3リットルとなっているところと、阪神淡路大震災のときに、実際に生活用水を16リットル使っていたということで、その乖離があるというようにあって、説明のときにそれをどうするのかというのが少し聞き取れなかったのですけれども、その辺りはどうなのでしょう。

●杉谷事業推進課長

事業推進課長の杉谷でございます。

先ほどのご質問で、1人1日3リットルを3日間というものと、実際に阪神淡路大震災のときの実績で調査された分で16リットルということで、基本的に少し大きく乖離をしている部分でございます。この部分につきまして、今、私どもといたしましては、この防災計画の中で、本当に生命維持に必要な水3リットルだけを3日間配るという計画で良いのかどうかというところについて、今、精査をしているところでございます。

実際には可能な範囲でもう少し水量的なものを加算する必要があるのではないかというように考えているところでございます。何リットルにするかというところは、本日お答えができかねるところでございますけれども、検討中でございます。

●川原上下水道局長

少し補足をさせていただきますと、先ほど杉谷が説明いたしました、被災想定リスク管理ということで、表になってございます。

主要3水源が全て送水不能に陥ると断水世帯の合計が8万4,000世帯余りになるわけです。これについて、この3リットルを8万4,000という断水世帯に対して供給することができるのかどうかということを、今、詰めているところです。

正直に申し上げますと。恐らく8万4,000世帯には、3リットルでも多分無理ではないか。「では、どうするのか」ということを今考えているというのが実態です。

1つの考え方として、地理的に飯梨川というのは安来の奥から出ていて、斐伊川は雲南・奥出雲、その間の距離というものが非常にある

わけです。

その真ん中よりも東側に今の忌部がある、松江市があるわけですが、施設の老朽状況も違っておりまして、斐伊川水系というものを尾原ダムから受水を始めたのは平成 23 年ですから、したがって耐震性というものは信頼度が一定高いだろうと。

今、忌部はダムの耐震化を進め、それが終わり次第に浄水場の耐震化を行い、導水管・送水管の主要基幹の管も、今、耐震化がほぼ終わりにかけているという状態があるわけで、施設でそれぞれ違う。

そうすると、この 3 つが全部ダメになるということを果たして想定すべきかどうかと。場合によっては、3 水源あるのだけれども、どこかの部分は最悪でも残っているという想定になると、この⑦番目の想定ではないわけです。そういうことも含めて、今、検討しているところでございます。

○水谷委員長

ありがとうございました。個人的に私も阪神淡路大震災のときの経験で、3 日間で水道が復旧するというのは確かにその通りだと思う。しかし、その間も、余震などがあつたり、建物が壊れたりするとなかなか車両も入れないということがありました。

まず 1 点は、飲み水に関して、給水車である程度対応できる場所があると良いということと、一番困るのはトイレです。ですから、災害時はお風呂の水を溜めていることで、水洗トイレに流すことができます。

この防災計画で、市民などに協力するのにも、もちろん復旧もありますが、こういうこともある程度考慮してもらってやらないと、避難所などもトイレがものすごく困った状況になったと思います。その辺りも考えたほうが良いのではないかと、これは実体験で本当に切実な問題だったので、お願いしたいと思います。

●川原上下水道局長

ありがとうございます。今、先生がおっしゃったのは自助・共助・公助という自助の部分で、どこまで徹底させていただくことができるのかという部分ですが、そこはきちんと抑えたいと思っております。

○宮脇委員

3つありますけれども、最初の1つは先ほどの話で、よくこの国は「くれない族」と言われています。「国がやってくれない」、「学校がやってくれない」、「市がやってくれない」、「子どもがやってくれない」、「親がやってくれない」、そうではなくて、やはりある程度自己責任であるわけですから。うちは20リットルぐらいの量が置いてあったと思います。

トイレなどは別ですが、とりあえず飲料水は各家庭で10リットル置くとか、そのような啓蒙をするべきだと思います。誰も文句は言わないです、こういう状況で。全く備蓄がなくて、「すぐに給水車が来ない」というのはおかしな話であって、それは1つの市のキャンペーンとしてやるべきだと思います。

2つ目は、合併したときに、簡易水道の債務が110億円くらいありました。55億円くらいは総務省が持って、あとの55億円はどうするのかと。一般会計に入れるわけにはいかないし。それは今まで国が面倒を見ると言っていますけれども、この国は、どこの国もそうですけれども、こういう経済状況にあって、いきなり切られますよね。そういうときにこういう財務内容や債務債権の内容がガラッと変わるわけですよね。その辺りをどのようにお考えになっておられるのか。

3番目は、施設の特に下水関係で、色々な場所がありますよ。放っておくと危ないですよ。取り崩すのにもお金がかかるし、しかし、一応それは固定資産になるので、今は調子が悪いのですけれども、バブルは来ないでしょうけれども、今、住宅やマンション需要があるので、業者に売ってしまうのです。

菅田も、とりあえず費用対効果でやると、駐車場にしても儲かるわけがないのです。しかし、そうではなくて、今、赤字でも良いから1回処理しておいて、貸すならば、ずっと収入がありますよね。あるいは売って処理をするとか、そういう資産をある程度売却したほうが良いと私は思うのですけれども、この3つです。

●川原上下水道局長

ありがとうございます、何点かいただきまして。

市民のみなさんへ備蓄をお願いする考え方は、水谷委員長さんもおっしゃっていただいた風呂の水を溜めていただくということもございますし、宮脇委員さんがおっしゃいますように、常時私どももペットボトルというものも持っているわけですから、そういうもので備蓄いただく。

それも含めて、先ほど私もお答えしたのですけれども、なるべくリスクというのは最大に見て、それに対応できるか・できないかというのを考えるというのはやはり基本になろうと思っています。

とはいえ、そこにはなかなか限界があるわけで、そこを、今、委員長さんと宮脇委員さんにおっしゃっていただきましたけれども、「ここまでしかなかなか難しいよ」と。

そこで自助の考え方、あるいは主体的に行動していただくということ、「ここまでしかできないので、ここから先はお願いね」ということも含めて、きちんとさせていただきたいということを、今のお二方のお話を伺って思ったところがございますので、そのようにさせていただきたいと思います。

それから、2点目のお話で、今の水道事業の起債の残高の関係でございまして、簡易水道特別会計だったものを企業会計化したので、起債がドッと膨れたわけでございます。

これは先ほどの説明のグラフにあります、統合後、計画的には減少させています。一昨年経営計画を策定したときにお示ししていますけれども、10年間の見通しで、その時点で私どもの類似団体の人口1人当たりの起債残高、それを1つの指標にしたわけで、それはそれよりも低いところへ10年後には持っていけるということになっています。その類似団体というものも、むしろ島根県というのは、簡易水道が日本で一番多い、旧も含めて。

簡易水道の区域の給水人口比で申し上げますと、21%の給水人口というのは簡易水道に頼っていたわけです。今、島根県内の水道事業者も大体上水道に統合したわけですが、類似団体を見たときには、そこまで簡易水道の比率がない団体というのがかなりある中で人口1人当たりの起債の残高をそこからさらに下げることが、10年後の計画

値としてはできるという計画を一昨年を立てました。

そこは確かに負債が将来的にあって、国の支援というものが、ある日突然ではないでしょうけれども、切られるということも重々おっしゃる通りでございます。

しかし、計画としてはそういう計画で進めさせていただきつつ、冒頭申し上げましたように、やはりそこは大きな視点というか、大きな立場で合併といいますか、広域化を進めるということもあります。

もう一方では、合併してもつながらないところは、「では、どうやって維持するのか」ということになるので、それについては国の責任だというのが私は基本だと思っております。

そこはきちんと要望をとにかく断続的に行って、大きな成果というのは一発ではとても無理だと思いますが、少しずつでも前に出していただくようにしていきたいし、声をずっと言い続けていないと、こういう問題はおっしゃるような突然やられてしまっただけということではないかと思っているところです。

それから、3点目の資産の管理といいますか、固定資産の処理の問題でございますが、菅田ポンプ場については、ポンプ場の施設というものが、結構地盤から下がある半地下式で、下にポンプがあるわけで、ポンプそのものも非常に巨大なものです。

それを私どもは駐車場にするために、ポンプは取り払いますが、下のコンクリートの構造物を一部埋め殺しにして平らにするやり方というものも考えました。

また基本的には産業廃棄物になるわけですが、埋まっている地下の構造物をみんな取って、きれいにして駐車場にするやり方も考えました。

色々なことを考えたのでございますが、結論的には、どうやらそれをきちんと取っていかうとすると、大変なお金がかかるということが分かりました。

あの場所というものが、元々田んぼを埋め立てたところなので、地盤というものがそこまで強くないので、工事をやることによって、工事損害というものが周辺に出かねないということも分かりました。

したがって、費用対効果でこれは中止し、先ほどおっしゃいました売却ということも含めて考えたいと思っております。

ただ、売却するときに、どういう売却の仕方があるのか、全く全部痕跡なく抜いて、きれいにしてということになると、費用が非常にかかるので、今、そこも含めて検討しているところでございます。

○前田委員

質問ですけれども、資料2の1ページ、下から9行目から10行目です。費用の件費のことで、ここに損益勘定職員と資本勘定職員というのがあるのですけれども、この言葉がよく分かりません。

損益勘定・資本勘定というのは、これは会計上の概念ですけれども、そこに損益勘定の職員と資本勘定の職員。職員の分類にもフローとストックの区分けがあるようなイメージなのですけれども、これは具体的にはどう違うのですか。

ですから、損益勘定職員と資本勘定職員というのは、これは会計上の処理の問題でそのようにしているのですか。

●中西調整官

会計上の処理のことをごさいますて、いわゆる予算・決算上で損益勘定3条予算・3条決算と、それから4条予算ということで、そこに件費をそれぞれ分けております。

主に言えば、4条職員というのは建設課を中心とした設計部門等の職員を当てておりますし、3条部分については維持・管理、そして事務部門等の職員を、すべてではないのですけれども、大きく言えば、そういう分けをしております。

○前田委員

つまり、職種によって分けているということですね。ですから、建設部門に携わる方と、維持や事務など、そういったフローの作業に従事している方は損益勘定職員で、資本勘定のほうは色々なものをつくったり、建設したり、そういったストックのほうにあたっている職員というイメージで良いですか。

●中西調整官

建設改良工事の単年度の費用がその単年度の費用ではなくて、40

年近くにわたって減価償却して費用化されるのに伴って、そのときの  
人件費というのは単年度の費用ではなくて、40年かけて処理するた  
めの費用だということで、併せて減価償却にのせていくような形で処  
理しております。

○前田委員

要するに、職種の違いということですね。分かりました。

○伊藤委員

防災計画の中ですけれども、防災訓練のことを杉谷課長さんのほう  
から詳しくご説明いただきました。私ども松江市の各公民館の地区単  
位で、毎年どこも防災訓練をやっております。原子力発電所の近くの  
ところは県と合同だったりするのですけれども、そうでないところは  
地区ごとの防災訓練を計画します。

この計画の中で単年度に2地区ぐらいずつ、上下水道局のほうも参  
加して一緒にするようにお話されたように思いますが、そういう計画  
でよろしいですかね。

ぜひそういうものを入れていただいて、公助ではなくて、私たちも  
防災訓練は自助・共助の意識高揚のために、みんなが我がこととして  
「自分の身は自分で守る」、「地域で守る」ということで防災訓練を毎  
年やっております。

そうした意識がだんだん高まってきているというようには感じて  
います。大雨を想定したり、それから地震を想定したりして、どこの  
地区もそれぞれの年に計画を立てています。

こういうものを全地区、年次ごとに2地区とか3地区で一緒に計  
画していただくと大変助かりますので、そういう計画でつくって  
いただくと良いなというように思います。よろしく願いいたします。

○安部委員

使用料の支払いが非常に住民にとって便利になるということで、  
LINE Pay、あるいは楽天銀行等の利用ができるというお話がござい  
ました。

確かコンビニを使用した場合には、若干手数料がかかって、その費  
用を上下水道局のほうで補っていかなければいけないというお話が

あったと思います。この LINE Pay、楽天銀行等を利用するようになった場合の経費は、実際にどうなるのかというところを少しお聞きしたいです。

それから、当面は「現在コンビニ等での支払いをされている方、納付書によってお支払いをされている方について」というお話だったと思うのですが、将来的にはみなさんに対しても、「そういう利用の活用もできますよ」というようになりますか。

あくまでも口座引き落としをされている方はそのままという考え方なのかというところが1つお聞きしたい点です。

それから、下水道を見ていかれるときにテレビカメラ、今回初めて「こういうものを使ってやるのか」ということを思ったのですけれども、こういう機械の設備投資等もかかると思うのですが、実際に上下水道局では、自走式のテレビカメラというのは何台ぐらいお持ちになっていますか。

それから、この劣化状況の調査にはかなりの費用がかかりますが、資料に補助率 50%と書いてあります。この補助率というのは、どこからそういう補助金が出るというように解釈をするのか、この補助率 50%という意味合いが少し分かりかねましたので、教えていただければありがたいです。

●鍛冶営業管財課長

営業管財課長の鍛冶でございます。スマホ決済をすることによってお客様に経費がかかるかということですか。

○安部委員

いえ、上下水道局のほうとして、手数料などは発生しないのですか。

●鍛冶営業管財課長

手数料は1件当たり 51 円、口座振替が 10 円ですので、少し高いところに設定してあります。

それから、納付書払いだけなのかということですが、現在使っている納付書は、そのままスマホ決済で使えるので、現在のところでは納付書だけを考えています。口座振替の方をどうするかというのは、もう少し検討が必要だと考えています。

●中倉工務部次長

工務部次長の中倉です。まず、管渠カメラですが、蛇みたいなものであったり、走るためにムカデみたいなものとか、色々なタイプのものがございます。それに CCD カメラが付いているものを走らせてますが、ガードマンでマンホールの上の交通を遮断したり、中に硫化水素等が溜まっておりますので、換気をしたり、中の安全確認をしたりを含めて基本的には一式の調査業務を委託しております。各メーカーがつくっているカメラを買って準備された事業者さんが、撮ったあと、解析するのに画像処理などをしますので、そういう専門の事業者さんをお願いしております。

それから、補助率ですが、基本的に水道と違って、下水道というのは非常に国の補助が厚く、新しいものをつくるときもそうなのですが、更新や修繕的なものに関しても国の補助が入るような制度になっております。

ですから、その調査業務もスタートから、計画から補助をもらうことになっております。社会資本整備総合交付金という一番大きい交付金の下水道のメニューで、2分の1市町村に国から補助が出たものに関して、下水道会計に入れるようになっております。

残りの2分の1は起債という形で、元利償還金の2分の1が国の交付金で入ってきますので、計画的にやっている調査並びに補修に関して、75%に国のお金が入るといようなシステムに現在はなっております。

○磯部委員

2点ほどお伺いしますが、1点は、先ほど委員長さんや宮脇委員さんからの質問と同じですけれども、応急の給水の基準量3ℓとなっておりますが、実績では大幅に上回っているようですね。今、自然災害が多いので、各家庭とも「色々準備しなければいけない」という意識は結構高いと思います。問題点として上下水道局で販売されている2リットルのペットボトルの保存期間がもう少し長くないものでしょうか。

10年ぐらいのものもあるようですが……。高額製造費の問題が

あるのではないかと思いますので「購入していただける人」を前もって調査し「買ってから 10 年がくるから、使って購入しましょう」と循環プランを作っていただけると良いのではないかと思います。長期間であれば市民の皆様の意識を形に代えられるのではないかと思います。

もう 1 点は、災害時の浄水場の水質確認で、次亜塩素酸ナトリウムの注入状況の確認とありますが、若い方の SNS に「消毒副産物の被害がある」という話を聞きます。災害時には多少汚れた水も考えられます。災害状況時から「消毒副産物」が考えられるので、安全性と塩素量ができるだけ少ないおいしい水の供給の両立を目指していただけたら良いと思っています。

また、伊藤委員さんが給水袋を背負ってみられましたが、お年寄りも持って帰られるだろうかと思うのです。できることなら運んであげるとボランティア体制をつくっていただけたらと思います。

持って帰るのが難しい方への対応が表記されると良いと思います。

災害時に施設など受援に何人と表記してあるのですが、そこに、「これはどこから来られるのか」が分かるようにしていただけると安心できると思います。

災害地の報道の光景を見ると「受水に行列しなければいけないのか」と思います。水は非常に大切なものだが「疲れていらっしやるのに」と思ってしまう。

応援の人たちがスムーズに支援場所に着けられるように、計画していると「どこ」という地域名が記載されている車をみると、自分の受援車だと認識して対応できるし、一緒に訓練ができたりして良いのではないかと思います。

●立脇浄配水課長

浄配水課長をしております立脇と申します。水道水の次亜塩素酸ナトリウム、消毒の関係のことについてお話をさせていただきます。

水道水の消毒に次亜塩素酸ナトリウムという薬品を使うわけですが、これは水道法で、みなさん方のそれぞれのご家庭の蛇口で水道水自体に消毒分が必ず 0.1 mg/L 以上残っていなければならないということになっています。

ですから、みなさん方のご家庭で飲まれる水は、必ず 0.1 mg/L の消

毒分が残っている状態で、雑菌が入っても、雑菌をやっつけられる成分が残っています。

これが濃くなりますと、当然カルキ臭、塩素臭ということになりますので、なるべくみなさん方のご家庭の中では、必ず 0.1 mg/L 以上残っていて、カルキ臭等が気にならない範囲で、私どもは一般の方に、松江市内 70 箇所、70 名の方に毎日この残留塩素がどうなのかということの検査をしていただいています。

あとは浄水場が一番最初に消毒をするところですので、消毒分が一番濃くなります。

当然季節、気温、水温等で濃度が変わってまいりますので、忌部浄水場で大体 0.5 から 0.6 mg/L 程度になるように消毒しています。

浄水場見学でも必ずできたての水道水を飲んでいただいておりますが、みなさん方は「カルキ臭は気にならない」ということでご意見をいただいています。

管末の消毒分の濃度などもチェックをしながら、浄水場で消毒薬を入れて、水道水として供給しています。

全体的な話の中でご説明をさせていただきましたので、よろしくお願いたします。

#### ● 中西調整官

業務部の中西でございます。ペットボトルには 10 年保存ができるもの等、色々ありますけれども、その違いの 1 つは、飲料水に関しては、製造元が賞味期限として記載する部分がございますが、保存年数とは違います。現在上下水道局のペットボトルの製造元は、賞味期限を記載しています。

賞味期限というのは「おいしく飲める期間」ということであって、このペットボトル容器には若干の通気性があるようで、長期間臭いのきつところに保存すると、若干匂い成分が中に入り込んで、おいしく飲めなくなる可能性があることから、賞味期限を 2 年間とうたっております。

アルミ缶に入れて保存期間とする、水は腐らないものですから、10 年くらいは書けます。

あと、ペットボトルを買いたい方を取りまとめて、それに合わせてつくってはどうかというご意見は、確かにそういうやり方があるとは思いますが。

ただ、恐らくそれを募って製造したとしても、今までつくってありました1.5リットル8本入り1箱を1,500円で売っていますが、日本のほかのメーカーが何百万本という単位でつくられる原価とは、全くまちあわないと思います。希望される方にもそこまで安くお売りすることができないと思います。

あとは防災計画の中で、どのように高齢者の方に、「取りに来れない」、「買いに行かれない」という方がいらっしゃったときにどうするかというところは、そういう面でも考えなければいけないかもしれませんけれども、売るという形ではなかなか難しいかと思っています。

●西村業務部長

前回、6リットルの給水袋を背負ってみていただいて、やはりあれでは高齢者の方には重たいということだったと思っております。「どういうところに高齢者の1人暮らしの方がいらっしゃって、あそこはここまで取りに来るのが非常に難しい」ということは、やはり地域の方が一番よく分かっていらっしゃいます。

やはりこれは大野の伊藤館長さんのほうと防災訓練をやる中で、そのようなことも含めて訓練がどういう体勢でできるかということ、実際の訓練の中で少し検証していただいて、それをまた防災計画のほうに活かしていきたいという考えでございますので、ぜひ訓練のほうをお願いさせていただきたいと思っております。

それから、どこの地域から給水車が来るかというのは、実は松江が被災した場合、松江の近隣のどこが被災したかによって、応援の来るところが違ってまいります。

ですから、中国地方が全部被災した場合、例えば四国から来たり、九州から来たり、近畿から来ることとなります。ただ、島根県だけであれば、近いところから来るようになるわけです。そのほうが早いですので、被災状況に応じてどこの地域から来ていただくという形になりますので、どこから来るというのは、ケースバイケースになります。

○伊原委員

ペットボトルの話なのですけれども、私も一応ペットボトルを箱で買って備蓄してございます。何かあったときと思っております。

それから、今回のコロナウイルスの関係で、トイレトペーパーがないということが SNS で発信されて、うちは前もって安いときに買ってあったので、これも良かったなと思っております。いつ、どういうときに、どういう災害が起こるか分かりませんので。

今年に入ってから、1月末から2月いっぱい、近所の内中原小学校のところで水道管の工事がありました。回覧板が回りまして、一方通行の道ですが、工事の間は一方通行を解除するというので、「水道管が老朽化しているから」と思って、私は見に行ったのです。

見に行きましたら、ほとんど古い水道管はもう撤去されたあとで、新しい水道管が入ってまして、この下に水道管の新しいものがありましたけれども、見たら随分小さいですね。

そして、随分きれいだなと思って、工事業者の方に聞きましたら、内中原小学校に緊急地下貯水槽がある関係で、そういうところを優先的にやっているということでした。

工事業者の方が大変だなと思って見ていたのは、朝に行って掘り返して工事をする、終わるとまた埋めということその間ずっとやっておられて、それがある程度できたら、今度は貯水槽の流れか何かを調査するみたいで、きちんと良い具合に流れているかというのをやっていたと思うのですけれども、やはり貯水槽があるところを重点的にこれからするというのでございました。

それから、水道管の破裂が年間3,300件くらいあるらしくて、2040年にはだいたいそういうところを直していくということ聞いて、すべて管が老朽化しているということで、そういう事業もやっていかなければいけないのだろうなと思って聞いていました。

昨日か一昨日、金沢のほうで地震がありましたよね。やはりいつどうい地震が起こるか分からない。今回のコロナウイルスもまさかまさかと思っていたので、やはりみんながそれぞれに危機意識を持って、水にしても、普段使っているトイレトペーパーにしても、ティ

ッシュにしても、やはりある程度のことを考えていかなければいけない時代になったのかなと思いました。

一番大事なのお水ですけれども、もしお水がないときは大変なことですし、実際にお手洗いが一番困るわけですから、色々な面でそういうことを我々は考えていかなければいけない時代になったのかなという思いがしております。

ですから、上下水道局のほうも、回覧と一緒に水道の色々な雑誌を入れていらっしゃるって、私もたまに見るのですけれども、色々なことで努力していらっしゃるって、やはり家庭でもそういう努力はしなければいけない時代になったのかなという思いがしております。

○水谷委員長

それでは、色々意見をいただきましたが、もし何かお気づきの点がありましたら、追加質問も含めて、後日また事務局のほうまでご連絡いただければというように思います。本日色々いただいた意見に関しては、ぜひこの計画等に今後反映していただければというように思っております。

それでは、続きまして、次回の委員会の日程についてでございますが、令和2年度の第1回の推進委員会につきましては、現在こういう状況でございますけれども、6月上旬の開催を予定しております。事務局のほうで日程を調整していただく予定でございますので、ご協力のほうをよろしくお願いいたします。日程が決まりましたら、事務局から委員の皆様方にはご案内を差し上げたいというように思います。それでは、以上をもちまして、令和元年度第3回松江市上下水道事業経営計画推進委員会を終了いたします。マイクを事務局のほうにお返ししたいと思います。

●中西調整官

それでは、以上をもちまして、本日のすべての日程は終了させていただきます。誠にありがとうございました。